

要約

国産飼料として注目されている飼料用稲の給与方法を検討したところ、牛の発育が良好で、肉質も良く、牛の飼料に適していることがわかりました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

牛の飼料の多くは海外からの輸入穀物に依存していますが、高値傾向が続く中、代わりとなる国産飼料が必要でした。そこで、本県が開発した飼料用稲専用品種「みなゆたか」「うしゆたか」を用いた肉用牛飼料としての代替使用について検討しました。

2. 内容

- 配合飼料に粳米と玄米を破碎したものを混ぜて給与し、乾草の代わりに稲WCSを給与したところ、通常の飼料を使用した場合と変わらない良好な発育でした。
- 玄米を給与すると、牛肉中のビタミンE濃度が高くなりました。
- この技術を活用することにより、飼料費を15～20%削減可能です。

3. 活用等

飼料用稲は、国の手厚い補助により安定した数量が安価に入手しやすい状況ですから、安心して利用できます。

表1 給与内容

試験区分	濃厚飼料(給与割合)	粗飼料	
もみ米	配合飼料:もみ米=6:4	稲WCS	稲わら
玄米	配合飼料:玄米=5:5		
通常肥育	配合飼料のみ	乾草	

注1)試験区には、米給与によるタンパク質不足を補うため、前半のみ大豆粕を給与。

注2)稲WCS:「稲ホールクロップサイレージ」の略。子実・茎葉を乳酸発酵させ、飼料化したもの。

表2 増体量と牛肉中ビタミンE濃度

試験区分	増体量/日 (kg)	牛肉中のビタミンE濃度 (mg/100g)
もみ区	0.87	0.38
玄米区	0.85	0.55
通常肥育	0.93	0.23

関連情報

- 食用米品種を使用しても、同様の効果が期待できます。
- 消化を良くするため、米は必ず破碎したものを給与してください。破碎機は、一般の破碎機、ガーデンシュレッダー等で代用できます。
- ビタミンA制御をする場合は、稲WCSの給与を控えるようにしてください。
- 粳米は給与し過ぎると肉質が低下するので、配合飼料の30%までとしてください。

畜産研究所 繁殖技術肉牛部

Tel. 0175-64-2233

E-mail nou_chikusan@aomori-itc.or.jp

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center
地方独立行政法人 青森県産業技術センター

